

【「話すこと・聞くこと」部会】

第2学年 国語科学習指導案

指導者 熊本市立託麻中学校 教諭 柳迫 千佳子

1 題材

「提案のしかたを工夫しよう プレゼンテーション」 (光村図書 2年)

2 題材について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は話すことに関して抵抗の強い生徒が多く、授業中の発言なども一部の生徒に偏る傾向がある。そこで、本年度より、国語の時間での発言機会を増やし、声を出すことに慣れるよう配慮している。また、話し合い活動を多く取り入れ、自分の考えを相手に伝えたり、話し合った内容をまとめて発表する経験を積んでいる。よって、4月当初より抵抗感は減少しているが、相手を意識してわかりやすく話すことはこれからの課題である。ここで、4月に実施したNRT診断検査における領域別診断を示すと、「話すこと・聞くこと」は3.6で全国水準3.0よりも高い。10段階別では38名中、10が2名、9が1名、8が10名、7が11名、6が9名、5が1名、4が2名、3が2名。これより、観察による評価では話すことの苦手な生徒が多いものの、話すこと・聞くことの知識や能力は備わっている集団であることがわかる。

一方、本題材で授業をするにあたり、生徒のレディネスを計るために以下のような活動と観察を行った。

7月半ばに総合的な学習の時間を利用して「修学旅行新聞の一押し記事を紹介しよう」というテーマで簡単なプレゼンテーションを実施した。まず、3人構成の班にテーマだけを与えて自由に話し合わせた。ところが、何をどのように伝えるか戸惑う生徒が多かったので、「一番時間をかけたり、工夫した記事のアピールをしよう」と説明した。さらにプレゼンテーションをする目的、その記事を推奨する理由、その記事の内容、感想などの発表項目を提示した。そして、必要な班には台本を準備した。結果的には全ての班がこの台本を用いて発表した。この活動過程からわかった生徒の実態をまとめると次の通りである。

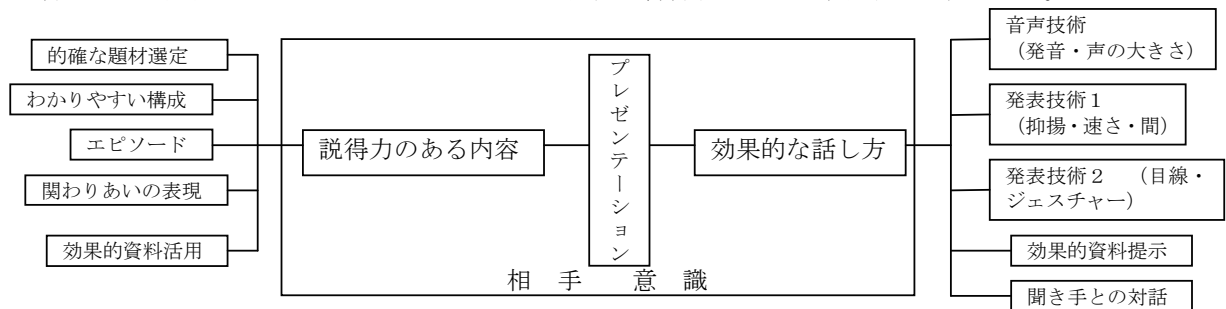
- ① 発表経験が不足しているため、自分の考えを人前で発表することに対する抵抗が強い
- ② 班活動となると、できれば人に任せようという考えの生徒が多い
- ③ マニュアルに沿って発表することはできるが、相手を意識した話のできる生徒は少ない
- ④ 恥ずかしがってうつむく生徒、小さな声しか出せない生徒、早口、棒読みをしている生徒などが目立つ

この時点で、相手を説得する工夫をしていたと評価できる生徒は男子3名、女子1名であった。

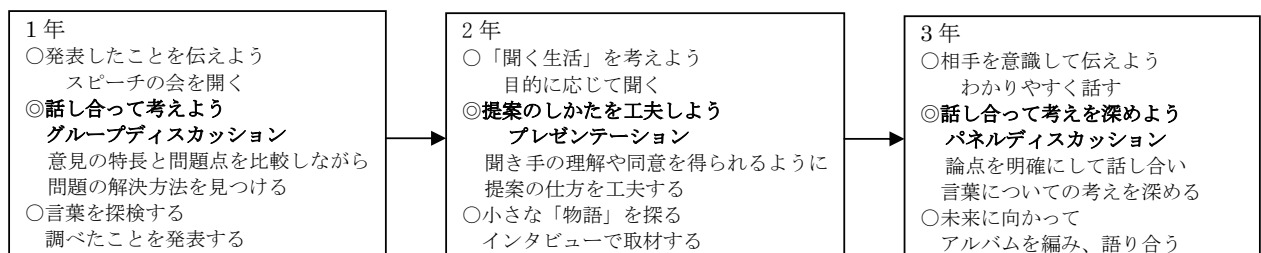
(2) 題材観

プレゼンテーションとは「理解や同意を得るために特定の相手に向けてアイデアを提案する活動」であり、スピーチ等と比べ「相手意識」を持つことが特に重要である。ここでは、「体験活動(ナイストライ)で学んだこと」を級友にプレゼンテーションするが、それぞれの体験を共有し、互いの認識を広げ、最終的にはナイストライ発表会の代表者を決定するという目的のもとで行う。

本題材は「総合的な学習の時間」等での発表会との区別をはかり、「相手の理解や同意を得るための効果的な発表の仕方を学ぶ」という国語科学習の目標を達成するためのものである。ここでは、生徒が言語活動に親しみ、対話を通して意欲的に学習できるように「キャッチコピーづくり」を提案内容の一つにさせる。学習者は体験活動で得た事柄をもとにキャッチコピーを作成し、それを解説しつつ学んだことを述べていく。その一連の学習活動において、説得力のある発表の手立てとプレゼンテーション技術を習得することを期待する題材である。



(3) 系統観 (◎は、話し合い・討論の系統)



(4) 指導観

今回の学習では、研究の視点①②③に基づいて以下のような指導を行いたい。

- ①話題については、実体験に基づいたものなら話すことへの抵抗の強い生徒でも意欲を喚起させやすいと考え、「ナイストライで学んだこと」とする。また、聞き手の興味・関心を高めるために「キャッチコピー」を提案させる。
- ②目的に応じて『私の言葉』を育む対話』の場面を設定し、学習効果を高めさせる。
- ③「話すこと・聞くこと」のプロセスの中でも「説得力のある内容」と「効果的な話し方」をしっかりと意識させる。また、相手意識を持った話し方を一人一人に習得させるため、個人発表の形式とする。

3 題材の指導目標

- (1) 目的に応じた対話を通して、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりすること (Aーア)
- (2) 目的に応じて情報を収集・選定し、話の構成や展開を考えて、説得力のある表現の仕方を工夫すること。
(Aーイ・ウ)
- (3) 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方に注意して発表すること。(1年言語(1)ーア)

4 評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	効果的なプレゼンテーションにするために、対話によって提案内容や話し方を改善しようとしている。
イ 話すこと・聞くこと	対話によって、説得力のある内容や効果的な話し方へと改善している。相手意識を持って説得力のあるプレゼンテーションを行っている。
ウ 言語についての知識・理解・技能	話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方を工夫することができる。

5 授業計画 (全5時間)

次 時	学習活動	指導上の留意点	主となる評価規準と評価方法
第一次	1 ガイダンス 1 教師のプレゼンテーションモデルを見たり、説明を聞いたりしてプレゼンテーションの目的と学習方法について理解する。 2 プレゼンテーションのテーマについて分析する。 3 ナイストライで学んだことについて整理し、キャッチコピーを考える。	・プレゼンテーションモデルを見ることで学習の流れをつかませ、プレゼンテーションとは何か知らせたい。 ・ナイストライのしおりを活用して体験の振り返りをさせる。	ア プレゼンテーションの目的や方法を理解しようと、積極的に取り組んでいる。(観察) イ テーマの分析やキャッチコピー作成において、熱心にプリントにまとめたり、話し合っている。(観察・学習プリント)
第二次	4 原稿作成段階 4 プレゼンテーションの内容を学習プリントにまとめる。 5 効果的に伝えるための構成や提示の仕方を考えたり、資料を作成する。 6 原稿の手直し後、メモ化し、発表の準備をする。	・具体例の提示や対話により、原稿づくりにおける改善点を見つけ出させる。 ・教師の机間指導を行う。	イ 説得力のあるプレゼンテーションをめざし構成や資料の提示を工夫している。(学習プリント・評価表) ア よりよいプレゼンテーションにするために学習ポイントに沿って、友達と協力しながら手直しをしている。(観察)
第三次	7 発表練習段階 7 プレゼンテーションの例を参考に、発表の工夫点を探し出し発表スキル1～3を確認する。 8 発表スキルに沿って練習した後、プレゼンテーションのリハーサル(ペア学習)を行う。 9 相互評価をし、さらに説得力のある話し方ができるよう練習する。	・具体例の提示や対話により、発表の仕方における改善点を見つけ出させる。 ・教師の机間指導を行う。 ・互いの発表を比較させることで、新たな課題に気づかせる。	イ 説得力のあるプレゼンテーションをめざし発表の仕方を工夫している。(観察・学習プリント・評価表) ア よりよいプレゼンテーションするために学習ポイントに沿って、友達と対話しながら改善点をみつけ出している。(観察)
第四次	10 発表 10 プレゼンテーションの本番を行い、班員による評価をする。 11 代表者が全員の前で発表する。	・一斉に個人練習をさせ、緊張をほぐしてから本番に臨ませたい。 ・評価カードは簡単なものにし、発表時はしっかりと話を聞くようにさせたい。	イ 聞き手を意識したわかりやすいプレゼンテーションを行っている。(観察・評価表) ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方に注意している。(観察・評価表)

6 本時の学習

(1) 本時の目標

発表における「効果的な話し方」を身につけ、説得力のあるプレゼンテーションにすることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	時間	基本発問・指示
導入	1 本時のめあての確認をする。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ○発表メモをもとに発表の練習をしてみましょう。 ○難しいところや困っていることはありませんか。
	効果的な話し方を身につけ、説得力のあるプレゼンテーションができるようになるろう。		
展開	2 説得力のあるプレゼンテーションのための発表の工夫点をとらえる。 ①ビデオを見て、発表者が工夫しているところを探す。 ②発表スキル1・2・3について確認する。	15分	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的な話し方のポイントを押さえましょう。 ○発表者は説得力のあるプレゼンテーションのために、どんな発表の工夫をしているでしょう。 ○発表スキルには3段階あります。スキル1から順に自分の発表を点検してみましょう。
	3 自分の課題を決め発表練習を行う。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の課題を決め、そこを重点的に練習しましょう。
	4 発表リハーサルをペアで行い、相互評価する。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○互いにプレゼンテーションを聞き合い、アドバイスを合いましょう。
	5 アドバイスを参考にして再度課題を決め、練習を行う。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○もう一度課題を見直し、練習してみましょう。 ○今度は別の人に発表を聞いてもらいましょう。
	まとめ	6 次時はプレゼンテーションの本番を行い、ナイストライ発表会の代表者を決定することを予告する。	5分

教師の支援	評価 ●は言語技能の評価（評価方法）	備考
<ul style="list-style-type: none"> 発表メモを用いたプレゼンが困難な生徒は、本時では発表原稿を見てもよいことにする。 本時では、より説得力のあるプレゼンテーションをめざして、リハーサルを行いながら効果的な話し方（発表スキル）を身につけていくことを確認する。 	<p>○原稿作りの際の学習ポイントだけでは、説得力のあるプレゼンテーションにならないことに気づいたか。 (観察・発表・挙手)</p>	発表メモ 提示資料
<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションモデルを見て、発表のポイントを見つけさせる。 生徒が気づきにくいところは、ビデオを止めたり、繰り返すことで対応する。 生徒の発言を基にして、3段階の発表スキルに整理していく。 (スキル1) 発音・声の大きさ (スキル2) 抑揚・速さ・間 (スキル3) 目線・ジェスチャー・聞き手との対話 ここで、本番のプレゼンテーションの絶対条件は「聞き手への目線」であることを知らせておく。 友達の立てた課題が達成できたか評価する。さらに、次の課題設定のアドバイスをする。 2回目のペア学習で、新たな課題をみつけさせたり、改善点・工夫点の再確認をさせる。 	<p>○説得力のあるプレゼンテーションのための効果的な話し方を積極的に探そうとしているか。 (観察・挙手)</p> <p>○説得力のあるプレゼンテーションには発表スキルの習得が不可欠であることを理解できたか。(観察)</p> <p>○自分のレベルに応じた発表スキルを選び、本時の練習課題にしているか。 (観察・評価表)</p> <p>○説得力のあるプレゼンテーションのための効果的な話し方を身につけようとしているか。 (観察・評価表)</p> <p>●話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方に注意しているか。(観察・評価表)</p>	ビデオ プロジェクト 学習シート 評価表
<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習を振り返り、向上したスキルを確認させる。 1～2名の生徒にプレゼンテーションをさせ、この時間に上達した点を述べさせたい。 	<p>○最初と比べて、プレゼンテーションのための効果的な話し方ができるようになったか。(挙手・評価表)</p>	学習シート